

10-2		主題	利用者の一般デイから認知デイへの移行をめぐる	
デイの種別変更		副題	～移行の条件に関する一考察～	
認知デイ移行の条件				
研究期間	24ヶ月	事業所	『居宅介護支援』『居宅介護支援事業所つきみの』	
発表者：佐藤裕史（さとうひろし）		アドバイザー：		
共同研究者：				
電 話	042-386-6517	メール	tsukimi-kyotaku@seirouin.or.jp	
FAX	042-386-6512	URL	http://seirouin.or.jp/tsukimi/	

今回発表の事業所やサービスの紹介	小金井市に2ヶ所あるうちの一つの特別養護老人ホームに併設の居宅介護支援事業所である。小金井市は老健施設も2ヶ所と、人口約11万6千人、高齢化率18%強の自治体にしては施設が少ない。そのため、独立型の事業所が多く、地域密着型サービスである認知症対応型の通所介護事業所も8ヶ所ある。筆者が所属する施設にも併設しており、一般型の通所介護事業も行っている。
------------------	---

《研究前の状況と課題》

ある認知症高齢者の支援をめぐる、通所介護（以下「一般デイ」という）から認知症対応型通所介護（以下「認知デイ」という）への移行がうまくできなかったため、必要以上に本人に負担（傷つけてしまった）を、家族に心配をかけてしまった。この移行が、スムーズにできれば、上記のような思いを、本人・家族にさせることはなかった、と反省した。

そして、そのような思いを他の利用者にさせないために、本人・家族が納得した上で、適切な時期に、一般デイから認知デイに移行できる条件は何なのか、どうすればうまくいくのか、と考えるようになった。筆者の周りに、このことを的確に言い表せる文献なり、論者がなかった・いなかったため、自ら明らかにするため、この研究に着手した。

《研究の目標と期待する成果》

利用者・デイスタッフ・介護支援専門員の三者が（もちろん、他のサービスを利用している場合はその関係者も）、納得できる条件を設定することで、支援の時期・方法が科学的になる。

また、利用者が、一般デイから認知デイに適切な時期に移行できると、

1. 同じ話を何度もしても許される環境がある、できなくなってしまった活動等に無理に参加しなくてもよい等、本人の負担を最小にできる。
2. 同時に、職員配置が手厚いので、利用者が求めた時に、或いは職員が気づいて手助けする等の個別的な配慮が可能である。つまり、適切なサービスが受けられる。
3. 更には、利用者に重症者が多く、入退院やショート入所など利用率が低下しがちな、認知デイの利用率改善の一因にもなろう。

《具体的な取り組みの内容》

対象者：筆者がケアプランを作成している利用者で、一般デイから認知デイへ移行した数例。

方 法：該当する利用者との移行に関する経過を、“実践記録研究会”※で用いられる、実践記録として再現する。取り組み直後の事例は、条件抽出に重きをおき、その後の事例は、抽出した条件の妥当性を検証することに重点をおいて記録する。

事例から導き出されたこと、実践経験からの知見を活用して（気づきも加味して）事例を整理・分析・考察する。

期 間：一例目からこれまで移行した事例まで（平成21年春～平成23年春）。

関係者：間接的な意見・助言の聴取（併設のデイスタッフ等）。

《取り組みの結果と評価》

まず、本人の認知症状を正確にアセスメントして、デイスタッフ・家族と共有する。つぎに、移行について以下の4項目を検討して実施（試行）する。1. 本人の自尊心の保全ができるか（プライドの維持）2. 自分の身内が、重度の認知症者と同じサービスを利用することに家族が納得できるか（家族の受容）3. 慣れている環境をかえてまで行う必然性があるのか（リスクマネジメント）4. 一般デイよりも認知デイの利用料が高くなるが、負担等は大丈夫か（負担等の制限）

そして、利用（試行）後の様子を観察・モニタリングする。必要があれば、移行後の本人の姿を家族にも見てもらう（納得してもらう）。自分なりに移行の方法は確立しつつある。デイ事業所の職員の受けも悪くない。また、利用者・家族も、移行を受け入れてくれているように感じる。

《まとめ》

目標と成果でふれた3項目は、本人の利用中の様子やモニタリング等を通して、「1」「2」は実現できたと考える。但し、「3」については、筆者の事例が数例であることから、直接的に認知デイの利用率向上につながったとはいいがたい。今後の課題としたい。

《参考文献》

※実践記録研究会編「方法としての実践記録～医療ソーシャルワーカーの現場から～」相川書房、2003年

《提案と発信》

更なる検証をした上で（自分なりに自信も持てれば）、このことを、事業所内＝居宅部門だけではなく、デイ事業所も巻き込んで、共有したいと思う。可能であれば、小金井市内の他の介護支援専門員や他のデイサービスの事業者とも、共有出来ればよいと思う。

【メモ欄】